

Brazelton Neonatal Behavioral Assessment Scale (NBAS)

ブラゼルトン新生児行動評価 (NBAS)

Brazelton (1973) により確立された新生児行動評価スケール。
28の行動評価項目と18の原始反射項目からなる

Infant neurobehavioral status was examined using NBAS (Brazelton, 1974). The basic score is composed of 28 behavioral items and 18 reflex items.



Seven cluster scoring category
NBASの7クラスター

クラスター	内容	
慣れ反応 Habituation	睡眠中の刺激に対する反応の漸減	Response decrement to light, bell, and tactile stimulation
方位反応 Orientation	視覚および聴覚刺激に注意する能力と全般的な敏活さの質	Animate and inanimate visual, auditory orientation items, and alertness
運動 Motor	運動の質および筋緊張	Tonus, motor maturity, pull-to-sit, defensive movements and level of activity
状態の幅 Range of state	易興奮性、状態の不安定さ	Peak of excitement, rapidity of build-up, irritability, lability of states and the cluster
状態調整 Regulation of state	刺激量の増大に対して状態を調整する能力	Cuddliness, consolability, self-quieting activity, and hand-to-mouth activity
自律系の安定 Autonomic stability	ストレスに対する自律神経系の安定	Tremors, startles and skin color
誘発反応 Reflex	異常な反射の数の記録	Record of the number of unusual reflection. e.g., plantar grasp, Babinski, ankle tonus

新版K式発達検査

Kyoto Scales of Psychological Development, KSPD

生後7ヶ月、18ヶ月

- ✓ 日本で標準化され広く使用されている発達検査法。乳幼児の行動を3領域(認知-適応、言語-社会、姿勢-運動)に分類し多角的に発達を捉えることを目的としている。対象は生後0ヶ月から満15歳までの一般児および障害児である。
- ✓ 海外での使用例はない。



Bayley Scales of Infant Development-II (BSID)

生後7ヶ月、18ヶ月

- ✓ Bayley Scales of Infant Development (BSID)は1969年に米国にて開発され、1993年に第2版 (BSID-II) に改訂された乳幼児発達検査法である。
- ✓ 心理尺度 (MDI) の178項目、運動尺度 (PDI) の111項目から構成される。検査対象年齢は生後0ヶ月から3歳までである。
- ✓ 海外の多くのコホート調査で用いられているが、国内での使用例はほとんどない。日本語化、トレーナーによる訓練、信頼性評価を行ったのちに採用した。



BSID 18monthの実施風景
心理項目：ブルーボード



BSID 18monthの実施風景
運動項目：階段の登降

Kaufman Assessment Battery for Children (K-ABC)

生後42ヶ月

- ✓ 国内で標準化された知能検査(2歳6ヶ月から12歳6ヶ月)。
- ✓ 心理尺度である認知処理過程尺度、教育尺度である習得度尺度からなり、認知処理過程は継次処理尺度と同時処理尺度からなる。
- ✓ 海外のコホート調査でも多用された。
- ✓ 日本K-ABCアセスメント研究会の講習を受け実施した。



CATSYS

生後42ヶ月

- ✓ 神経運動機能検査。ふるえ検査、身体重心動揺検査、耳一手協調運動機能検査、反応時間検査、Finger tappingの5つからなる。このうち、ふるえ検査および身体重心動揺検査を実施している。
- ✓ ふるえ検査はペン型の測定器を保持した状態で、身体重心動揺検査は測定器に直立した状態で、一定時間、姿勢を保持するものである。

ふるえ検査の実施風景



身体重心動揺検査
の実施風景



主な交絡要因に関する測定

項目	実施方法
食事調査	半定量式食物摂取頻度調査(FFQ)
育児環境調査	Home Questionnaire
社会経済的環境(SES)	Hollingshead four factor measures
母親IQ	Raven's Standard Matrices
両親学歴、喫煙など	アンケート

FFQは実寸法師(伊達ら、第一出版)にさらに魚摂取に関する独自項目を追加した。育児環境は安梅らのアンケート法を採用した。SESは収入と職歴について詳細に聞き取った上で、厚生労働省による職業分類をもとに分類した。母親IQは言語を用いない図形認識による検査であるが、国内で標準化されている短縮版ではなく、Standard版を海外より購入し使用した。

FFQ

- ✓ 「実寸法師(122食品版)」(第一出版、1996)を使用。各食品の実物大の写真を呈示し、過去1年間の摂取頻度と1回摂取量を聞き取りにより調査した。
- ✓ TSCDではさらに魚摂取に関する項目(13種類の魚)を追加した。



オムライス



まぐろ

Raven Standard Matrices

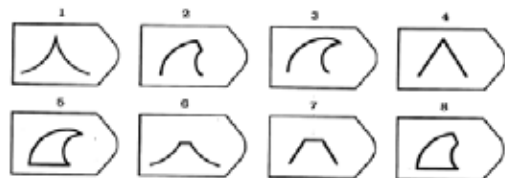
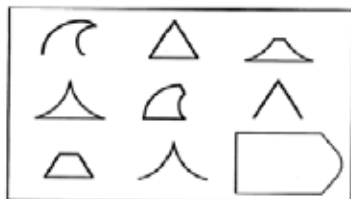
C.J. Raven(1938)

✓視覚を介した推理能力を測定。6-80歳の一般集団が対象。言語を介さず
に実施できることから比較文化的研究や臨床的研究に使用されてきた。

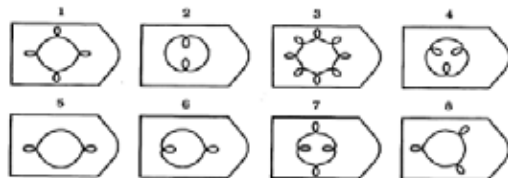
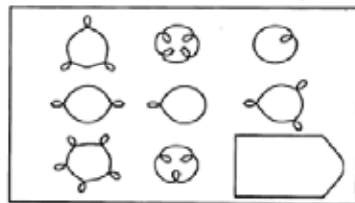
日本では標準化されていない。

✓全60問。検査所要時間約30分。

D11

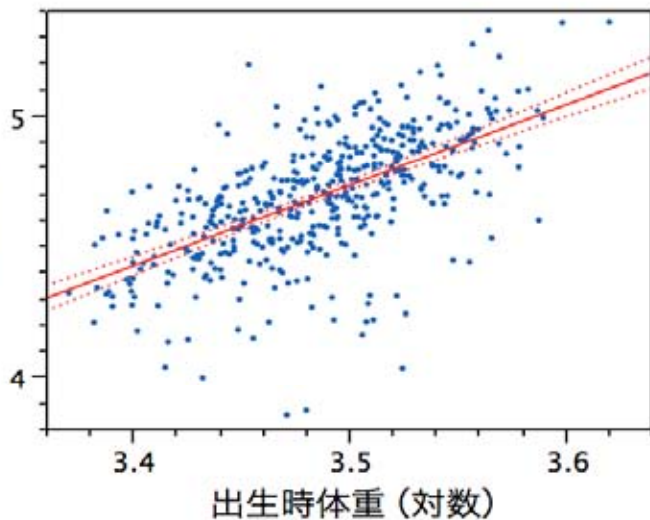


E12



Motor Score (Estimated)

予測値 運動平均



Birth Weight (log)

$$y = -6.05 + 3.08x$$

自由度調整R ²	0.37
n	452